

調査速報

道西日本海(檜山海域)スケトウダラ資源調査結果

2016年 11月 1日

北海道立総合研究機構 函館水産試験場 (0138-83-2893)

○2016年10月14～23日に、調査船金星丸を用いてスケトウダラを対象にした計量魚探調査、トロール調査、CTDによる環境調査を実施したので結果をお知らせします(図1)。調査速報は下記の函館水試ホームページからもお覧になれます。

<http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/hakodate/>

- スケトウダラ魚群は、昨年と同様に奥尻島周辺や松前小島周辺で分布が多かった。
- 計量魚探によるスケトウダラ魚群の反応量は、昨年を約4割下回った。
- スケトウダラの大きさは、主に尾叉長35～45cm台が多かった。
- スケトウダラ漁場周辺の水温は、スケトウダラが主に分布している水深300m以深ではほぼ平年並であったが、300m以浅は平年よりも低かった。

● スケトウダラ魚群の水平分布と鉛直分布

スケトウダラ魚群は、昨年の同時期と同様に奥尻海峡(奥尻島の東側)や奥尻海脚(奥尻島の南側)、松前小島周辺などの沖合域で分布が多かった(図2)。沿岸域の中では、熊石沖から乙部沖の北部海域で比較的多く分布していた。また、スケトウダラ魚群は水深300～400mに多く分布していた(図3)。

● 計量魚探によるスケトウダラ魚群の反応量

計量魚探調査結果から推定されたスケトウダラ魚群の反応量は、昨年(2015年)を約4割下回った(図4)。反応量が減少したのは、昨年まで主な漁獲対象であった2006年生まれが高齢化や漁獲により減少したためと考えられる。

海域別にみると、奥尻海峡から乙部沖にかけては昨年並であったが、奥尻海脚や松前小島周辺では昨年からはほぼ半減した(図2)。

● トロール調査で漁獲したスケトウダラの大きさ

相沼沖、奥尻海峡ともに、主に尾叉長35～45cm台のスケトウダラが漁獲され、相沼沖の方がやや小型であった(図5)。

● 水温環境

スケトウダラ漁場周辺の乙部沖、江差沖、上ノ国南沖で水温の観測を実施した(図6)。各調査点ともにスケトウダラが主に分布していた水深300m以深はほぼ平年並であったが、300m以浅は平年よりも低かった。

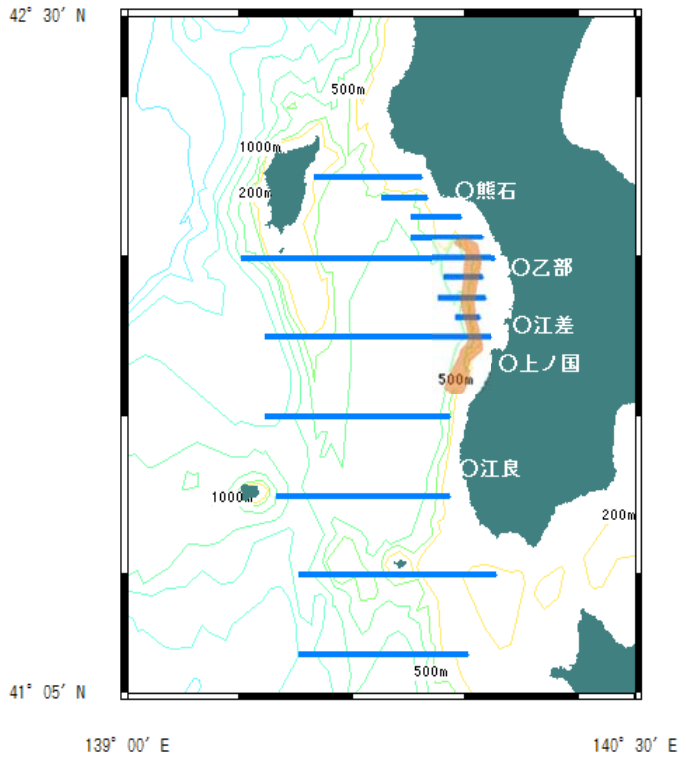


図1 計量魚探の調査ライン (—)
 ※沖合域は10マイル間隔で、沿岸域は2.5マイル間隔でデータを収集した。
 ○ : スケトウダラ漁場域

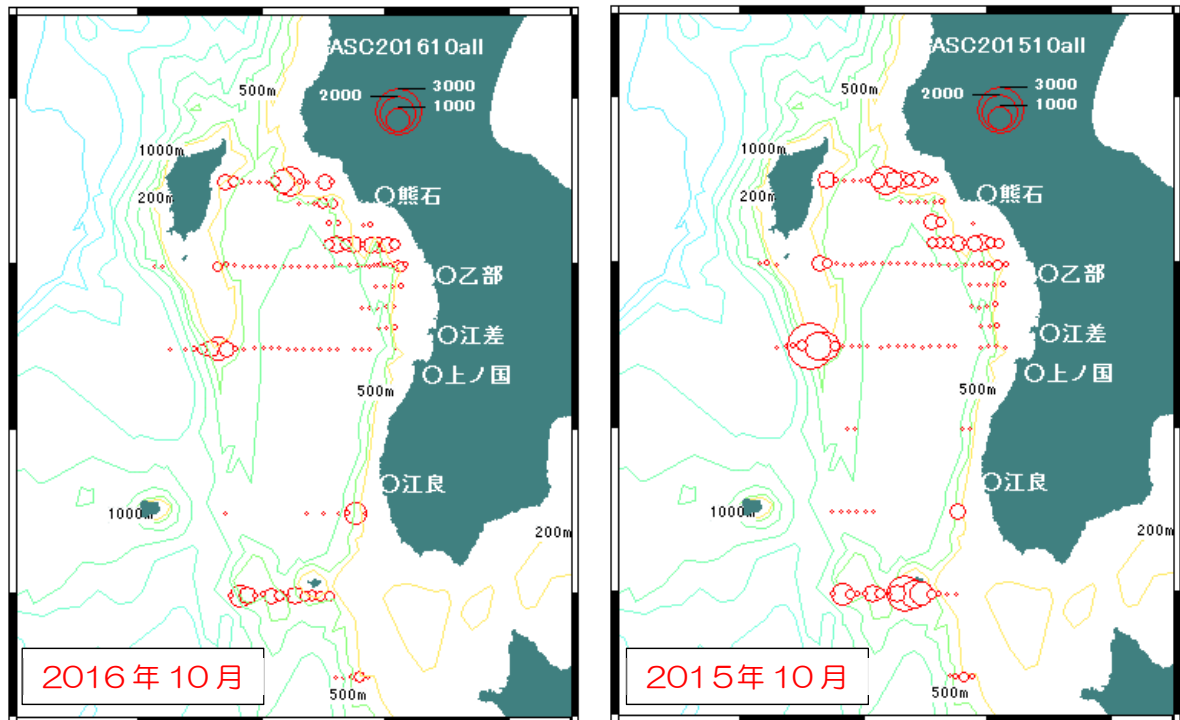


図2 スケトウダラ魚群反応量の水平分布 (左 : 2016年10月, 右 : 2015年10月)
 ※魚群反応量(NASC) : 1マイル平方面積あたりの魚探反応の強さを表す。
 ○の大きさが魚群反応量の強さを示す。

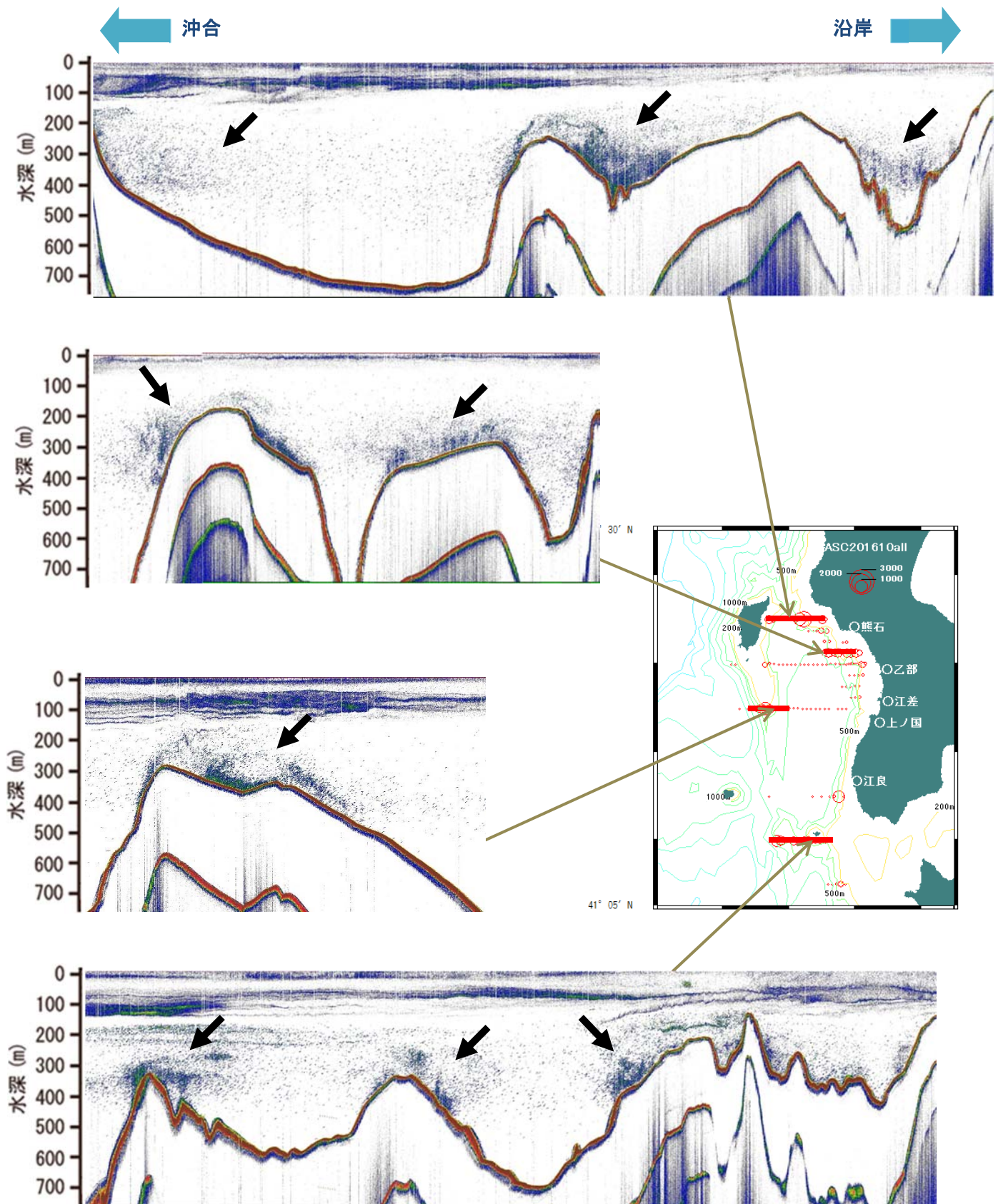



図3 各調査ラインにおける魚群の鉛直分布(夜間に調査を実施)(2016年10月)

※矢印  はスケトウダラと考えられる反応

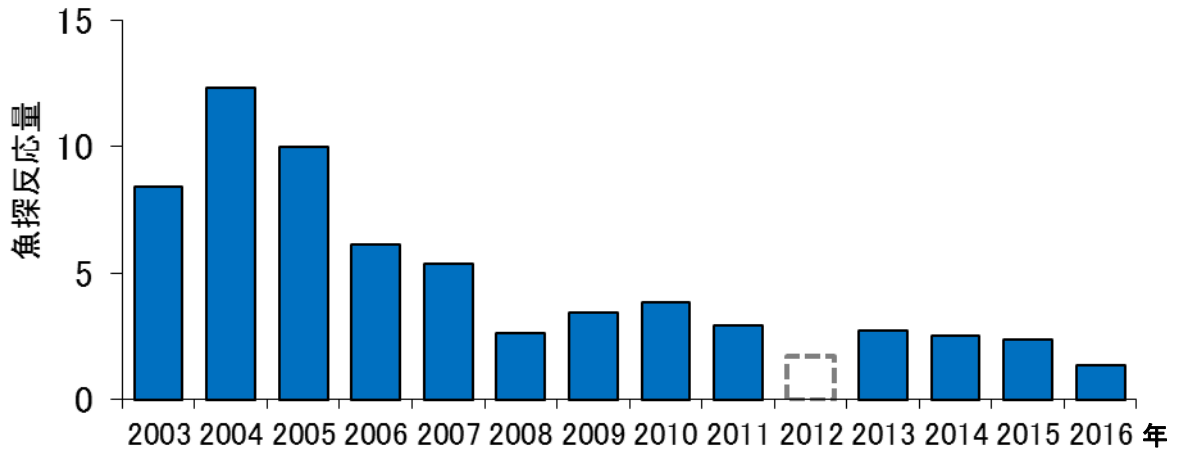


図4 計量魚探調査（10マイル間隔）によるスケトウダラ魚群反応量の推移
 ※2012年は荒天による欠測等により過小評価されているため参考値

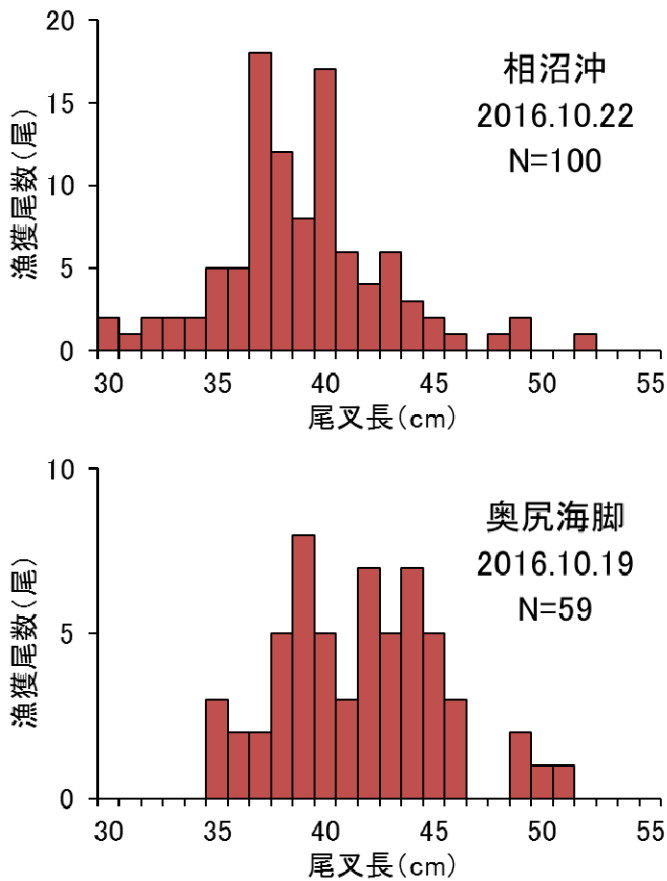


図5 着底トロールで漁獲したスケトウダラの大きさと漁獲地点

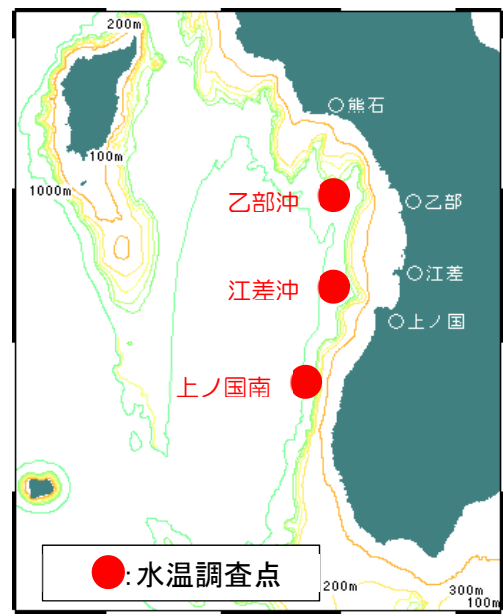
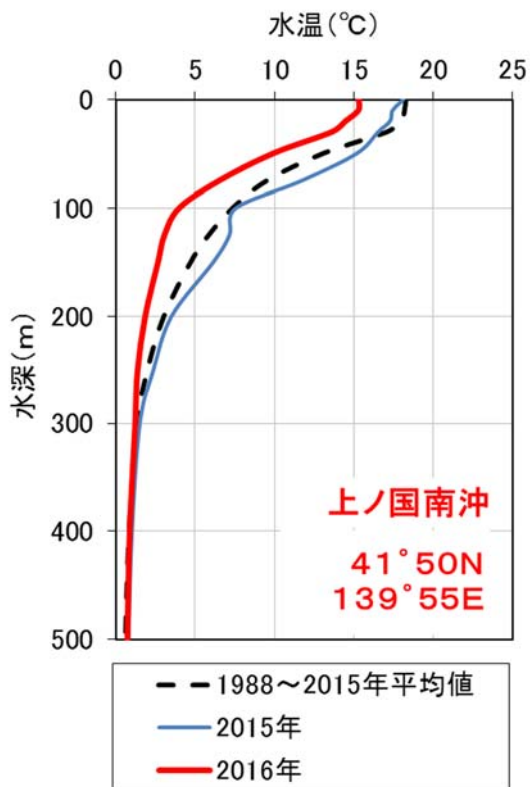
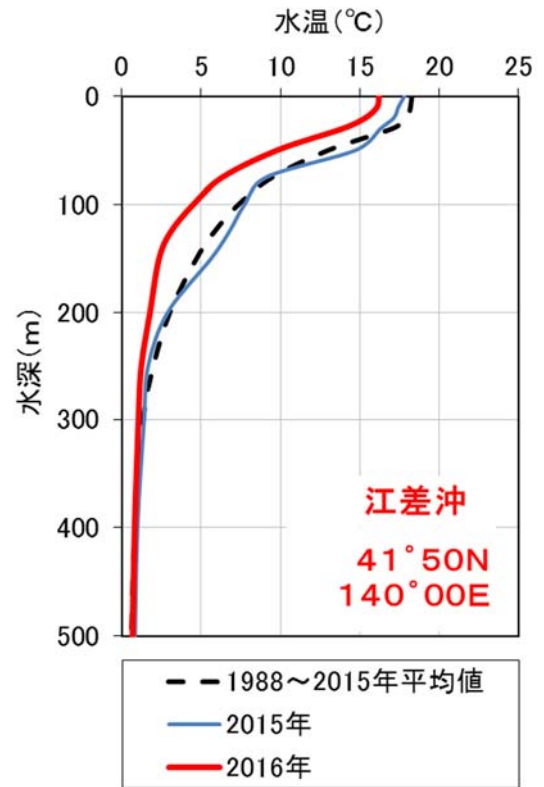
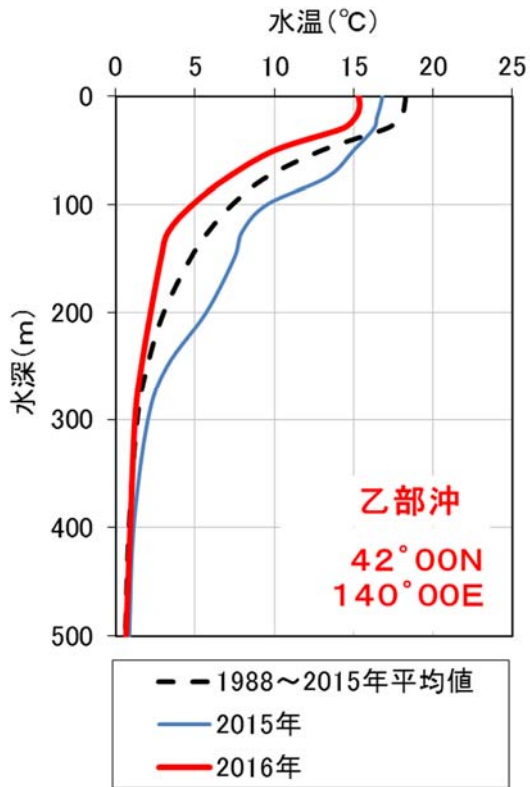


図6 乙部沖(左上), 江差沖(右上), 上ノ国南沖(左下)の鉛直水温分布と調査点位置(10月)